

少年護郷隊沿革 革命史

太平洋戦争の末期戦況の緊迫に伴い、沖繩島が皇土防衛の第一線となるや、昭和十九年十月十五日勅令に基き、第三遊撃隊通称護郷隊を編成す。隊員は国頭郡に在住せる十七七八才の第二国民兵を防衛召集に依り充當し、各護郷国民学校にて遊撃戰遂行に必要なる戰技を附与する如く訓練す。昭和二十年一月軍命令に基き、戰斗配備を整え、と共に第二第三次に召集せる隊員の教育を謝花校羽地校にて實施し、戰力を強化せり。昭和二十年三月二十三日甲号戰備下令され、本部(屋我地島及各村出身者)を多野岳に第一中隊(一名護郷恩納村出身者)を多野岳に第二中隊(羽地今帰仁村出身者)を多野岳に第三中隊(久志村本部町出身者)を国頭支隊に配屬し、三〇二高地に第四中隊(金武村本部町出身者)を久志岳に配備し、至嚴なる警戒裡に戰備と完成す。四月一日敵は本島に上陸、四月七日名護湾に上陸するや、第三中隊は乙羽岳及真部山にて国頭支隊と共に第一線の戰斗に各隊は夫々戰斗地域に侵入せる敵に對し、果敢なる挺身遊撃戰を展開し、軍主力の作戰に呼應せり。四月下旬多野岳等の基地を欠陥せるも、屈せず、神出鬼没或は夜間爆薬を抱いて敵陣深く潜入し、或は白昼堂々と特殊秘密兵器を以て攻撃し、敵の心胆を寒からしめ、以て遊撃戰の本領を遺憾なく發揮せり。六月下旬以降南部地区の軍主力玉砕後に於ても、眞に護郷隊の特色を發揮し、變幻自在なる秘密遊撃戰を遂行中、八月十五日終戰の詔勅を受け、け部隊を解散す。

戰没者氏名

伊波興保	翁長 巖	玉城 浩	屋比久松雄	宮城勇盛
伊波幸正	翁長 久雄	沢岨 安順	前田 正幸	宮城盛晃
仲間朝次郎	親川 源勇	仲井 宗文	眞榮城 主計	志伊良正善
伊芸光一	大城 龜盛	仲田 誠市	小橋川 壽清	城間政藏
伊芸秀一	大城 音松	仲宗根 源一	幸喜 仁清	謝花朝功
伊芸雅秀	大城 幸仁	仲間 武彦	崎山 朝憲	諸富福勝
原目和昌	大城 幸義	長嶺 紀孝	岸本 憲一	新城彦正
渡嘉敷綾吉	大城 幸治	上間 兼和	喜符 幸壯	島袋光男
当山幸男	大城 清計	久場 兼和	金城 廉武	比嘉德安
山口忠勇	湧川 幸善	久場川 徳源	金城 義信	比嘉憲英
渡久地政昭	嘉陽 宗吉	国吉 半藏	金城 秀清	比嘉定一
徳本時雄	嘉陽 宗洋	久高 良夫	宮里 哲正	比嘉常盛
知念盛正	嘉陽 弘	具堅 興元	宮里 清光	諸田善藏
知名定吉	赤那 哲夫	山田 義英	宮城 治助	諸重安昌
鏡波 清	平良 文明	山城 繁治	宮城 勝源	菅江敬三
小那霸安敬	高良 松三	屋部 憲用	宮城 文義	瑞慶符智俊
比嘉盛功	比嘉 清一	上地 清定	嘉陽 宗仁	仲尾宏清
石川良一	金城 前光	木下 忠正	上里 善藏	宮城 盛忠